

トランプと ترامカ

なみき やすとし
並木 泰宗

●連合・企画局長

連合の逢見事務局長が出張でワシントンに行かれる際に、「同時期に安倍首相は Trump に、自分は Trumka に会いに行く」とおっしゃった得意のダジャレ(?)を、タイトルに拝借しました。その ترامカ AFL-CIO (アメリカ労働総同盟・産業別組合会議)会長は、2015年5月に来日されました。その際、連合においてご講演をいただき、私も聴衆の一員に加えていただきました。ご講演は、世界中に広がる「格差の拡大」を、いかにして食い止めるのかというテーマでした。“1980年代以降、アメリカでは最も裕福な者が、政治権力を手中にし、法律や規制を企業に有利に書き換えた結果、野火のように広がる格差を生み出した。アメリカ経済は不安定化、インフラは崩壊寸前という状況に直面し、ワーキングプアだけでなく、すべての労働者の中に「賃金を上げろ」という機運が高まっている。折しも大統領選挙の最中であり、労働者は、賃金を引き上げるための、大胆かつ包括的な計画を提示する候補者を求めている”と主張されていました。 ترامカ会長は、ヒラリー・クリントンが、大統領になるのではと予想されていましたが、大方の予想にも反し、トランプ大統領の誕生となりました。高卒白人労働者からの圧倒的な支持があったようですが、 ترامカ会長が指摘された「賃金を上げろ」という労働者の声の広がりを、「どちらが上手く拾い上げた印象を植え付けたのか」が、勝負の鍵を握ったのでしょうか。それとも、「民主党も共和党も労働者ではなくウォール街を守っている」と8

割の組合員が感じているというご心配が、既存政治への嫌悪感として広がってしまったのでしょうか。

ترامカ会長は講演後の会場との対話の中で、オバマ大統領を誕生させた秘訣を問われ、“「この候補者に投票するように」とは言わない、支援候補者の労働者のための政策や実績を事実として示し、労働組合が支援していると伝えることで、組合員自らの判断を促している”とお答えになりました。民進党にも、職場の最前線で役員が事実を示し、胸を張って執行部の支持を組合員に伝えられるように、「我こそが真に働く者のための政党だ」という政策や実績を、積み上げていただかなければなりません。

AFL-CIO の懸命な努力にも係わらず、「アメリカ・ファースト」と叫んだトランプ大統領が誕生しました。日本でもポピュリズム政治の波が怒濤のごとく押し寄せています。しかし、波は勢いよく押し寄せますが、必ず引いていきます。次の大波を探せばかりいようでは、とても二大政党的体制の一翼は担えません。頂きから突き落とされても、八合目くらいでは踏ん張る地力をつけ、再度頂きを目指して険しい山道をはい上がる、覚悟と根性が必要です。その地力をつけるために必要なのは、額に汗してまじめに働く多くの国民の支持を、確固たるものにすることではないのでしょうか。私たちは、覚悟と根性のある政党・政治家を、頂きに押し上げるためであれば、努力を惜しみません。